

### 輝きをつなぐ ～戦国武将揃い踏み～

書：杉島 直樹 保護司  
 写真：川村 千誉志 保護司

発行責任者  
 福岡市東区箱崎 1-32-1  
 東保護区保護司会  
 会長 藤野 重久  
 編集 総務 部

## デジタル化の岐路

福岡保護観察所長 調子 康弘



あけましておめでとーございませう。

東保護区保護司会の皆様におかれましては、日頃から保護司活動に御尽力賜りありがとうございます。

長い間コロナ禍とのたたかいが続いておりますが、昨夏は各地で社会を明るくする運動が行われました。

「三年ぶり」という声がよく聞かれました。久しぶりの行事の準備に戸惑いもあつたようですが、皆さんで力を合わせて取り組んでいただきました。広報効果も、そして保護司会の一体感をアップする効果もあつたのではないのでしょうか。

さて、コロナ禍の副産物として、デジタル化の進展がありました。コロナ以前はペーパーレス、デジタル機器の活用などの点で更生保護はそれほど進んでいませんでした。スマホが普及する日常生活の方がデジタル化しているかもしれません。

保護観察所で言えば、オンラインの

会議、面接が増えました。いずれも直接会うことに比べれば十分な点があります。

当初は「コロナだからやむをえない」でしたが、次第に、遠方まで移動しなくてよい、日程調整がしやすい、多数が参加する研修ができるなど、多様なメリットが分かってきました。

現在、デジタル化は一つの岐路に立っています。行動制限は緩和されましたが「やと元どおりできる」ばかりだと、デジタル化の良さを失ってしまいかねません。

もちろん、デジタル化が馴染みにくい場面もあります。だからこそデジタル化のメリット、デメリットをよく見極め、良いデジタル化は積極的に進めたいと考えます。

「慣れないから不安」という声は、実は私も共感しますが、ここは将来のための頑張りどころです。

今後とも時代のニーズを踏まえるよう努めてまいります。よろしくお願ひ申し上げます。



### 保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって

- 一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
- 一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え犯罪や非行の予防に努めます。
- 一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。



# 女性保護司研修(坐禅と共に)

令和4年6月23日(木) 勝楽寺にて

研修部 柴田 桂

研修部 上田 裕子

6月23日、女性保護司研修が箱崎の勝楽寺にて行われました。講師は第1分区保護司でもある青井直信住職。日頃信仰心の無い私も玄関の蓮の花に迎えられ、「生かされている自分」を感謝すること、身と呼吸と心を調えること(坐禅)という講話に仏教の教えを感じました。そして初めての坐禅を体験！真っ白な意識の中でとても時間が早く過ぎ頭の中がスッキリしました。そして、保護司である前に人として丁寧に生きてゆかねばと思ひ入りました。その後は席を移し親睦会が行われました。和やかな雰囲気の中、日頃の活動の中で小さな疑問や心持ちのこと、手強い対象者へのアプローチなどなど話題は尽きません。「こういう場は大事だよね」「又ゆっくり話そうね」と口々に言いながら解散しました。まだコロナ禍は続いています、いろんな意味で顔を合わせて話す大切さを感じた一日でした。



私は女性保護司研修は初めてで、とても楽しみにしておりました。研修はもちろんです、その後の親睦会にも参加し、みなさんの経験談をお聞きしたかったです。まずは勝楽寺で、青井住職の講話を聴きました。そして坐禅です。姿勢を整える事で、身も心も豊かになった感じが致しました。次は親睦会です。私と同じ薬物対象者を担当されていた方がおられ話しを聞くことができました。「いつ連絡があっても電話に出て話しを聴いています。」と言われ、対象者に寄り添っている事に感銘を受けました。今以上に、私も話しを聴く努力をし、再犯はさせないと心に決めて面接していかうと思えます。今回は、なかなか経験できない坐禅、先輩保護司の体験談などを聞くことができ、とても有意義な研修参加となりました。



## 最後の研修旅行

令和4年 10月23日・24日

研修部長 濱崎 泰二

今回の研修は予定していた施設見学がコロナの為に中止となり、急遽バスの中でのビデオ研修と、金子みずゞ記念館で講和を聞く事となりました。

ビデオ研修は、有村架純が保護司役で森田剛が対象者役の「前科者」という映画でした。有村が演じる阿川佳代は新米保護司ながら、森田が扮する元殺人犯の工藤誠の更生や社会復帰に寄り添い奔走します。しかし工藤は別の殺人事件の容疑者となり、阿川は保護司としての自信を失ってしまっています。最後は工藤の容疑も晴れ、嬉しいラストでした。現実の保護司活動とは少々離れた感じでしたが、この映画で今一度「保護司とは？」を考えるのもよいかと思います。

研修のあとは、長府の毛利邸や乃木神社散策です。時代祭りに遭遇して鎧兜を身に付けた大



勢の武者や官女の行列を見る事ができて幸いでした。その後、角島大橋を渡り角島灯台を見学しました。翌日はまず、山裾から赤い鳥居が一・二・三・基並ぶ元乃隅神社見学です。大鳥居の上に設けた賽銭箱に大の大人が何回も投げ入れる姿は、皆子どもに帰った様でした。

さて、今回のもう一つの研修である金子みずゞ記念館に到着です。草場講師より、まずみずゞの生い立ちを話していただきました。結婚して娘をひとりもうけましたが、夫とうまくいかず離婚、その後、自殺を遂げたことが残念でたまりません。次に詩の紹介をしてくれました。子どもにも話しかける様な詩が多く彼女の優しさがにじみ出ていると思いました。26歳の若さでこの世を去ったみずゞですが、彼女の詩は、多くの人の心に感銘を与えることでしょう。



金子みずゞ記念館研修

夕刻、無事に福岡に戻り今回も良い研修ができたと思っています。多少私事になりますが、令和5年8月に保護司として任期満了を迎えます。任期中研修活動にご協力いただき感謝申し上げます。

- ◎九州地方保護司連盟会長表彰  
林 岩生 宮本 均
- ◎九州地方更生保護委員会委員長表彰  
稲澤智美 刈茅誠治 田中清実
- ◎全国保護司連盟理事長表彰  
外赤美恵
- ◎法務大臣表彰  
草野崇敏

### 福岡県更生保護功労者

令和 4 年 11 月 15 日、「あいれふ」において顕彰式典が開催され、東保護区からは次の方々が表彰されました。

- ◎九州地方保護司連盟会長感謝状  
青井直信 加藤勝行  
寺田美津子 溝上孝徳
- ◎福岡県保護司連盟会長感謝状  
箱嶋典子 (家族功労)
- ◎福岡保護観察所長表彰  
上田裕子 久保田由美子 寺田達也  
古田大八 山口靖子 渡部聡子
- ◎福岡県保護司会連合会長表彰  
川村千誉志 澤村恵子 西村春吉
- ◎福岡県保護司会連合会長感謝状  
坂本淑子 藤本隆一 永島恒美  
(家族功労)
- ◎福岡県知事感謝状  
正田敏明 藤野晴正

更生保護施設福正会は、福岡市早良区百道1-3-13にあります。早良区役所、藤崎バスターミナル、藤崎及び西新商店街が近隣にあり、非常に利便性が良い環境にあります。成人男子のみ20名定員の施設です。常勤職員は、施設長1名(補導主任兼任)、補導員4名、福祉補導員1名の6名です。17:00からは常勤補導員と非常勤補導員と宿直を2人制で実施しています。



福正会外観

## シリーズ 多機関連携 を目指して 15

### 成人男子指定の 更生保護施設として

更生保護法人福正会  
施設長 小関 康幸

1 これまでの収容実績は、下記のとおりです。

#### 【年度ごとの収容状況】

年度	保護率	延人数	新入者数 (仮釈放者)	内 高 齢 者	内 障 が い 者	内 そ の 他 ( 知 障 ・ 疾 病 )
30	93.3	6,814	72 (58)	8	2	6
1	93.0	6,787	69 (61)	4	3	3
2	90.4	6,590	59 (53)	6	8	4
3	86.4	6,179	78 (70)	6	17	8
4年10月末	88.8	3,353	37 (30)	4	9	1

2 在所できる期間は、仮釈放(身柄が釈放)されてから最長6月間までです。例えば、矯正施設を満期で釈放されてから知人の許に4月間身を寄せていたが、居づらくなり出奔し、住所不定となったため、保護観察所に相談に来て更生保護施設への入所を希望しても残り2月間しか在所できないこととなります。

3 更生保護施設に入所すると原則就労して退会資金を貯めることとなっています。入所したら概ね3月間無償で食事が提供されます。

4 上記の特別処遇ケース(高齢者・障がい者・疾病者等の就労困難者)は、福祉補導員が福岡県地域定着支援センターや福岡保護観察所管の自立準備ホーム等に生活保護受給を前提とした出口指導を実施しています。

5 しかし、年々全国の矯正施設において収容者が減少しています。当施設も御多分に漏れず新入者が先細り状態です。県下にある男子専用の5つの更生保護施設で競合しています。犯罪者が減少していることは、社会的には、喜ばしいことと思いますが、職員の人件費等の確保とは相反することとなります。ここに更生保護施設の経営の難しさがあります。

6 最近の現状としましては、高齢者は当然ですが、中年で働けない新入者や薬物事犯者が増加してきて、出口支援の困難さや途中の事故退会者(再犯者)も増加してきており、定着率が悪く経営を困難にしています。

7 しかし、今後も6名の職員で一致団結し、個々の処遇能力の向上も図りながら寮生の処遇に当たっています。皆様の御厚情並びに御理解を賜りたいと存じます。

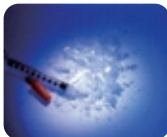
## 危険

は、私たちの  
近くに  
潜んでいる。

### サポートセンターだより

薬物についてサポートセンターから発信します。薬物乱用とは、ルールや法律から外れた目的や方法で使用することをいいます。これは、あなたの健康に大きな悪影響をもたらすばかりでなく、あなたの周りの人々をも傷つけることになるのです。覚醒剤や麻薬などは一回使用しただけでも乱用にあたります。

#### 乱用される主な薬物



覚醒剤



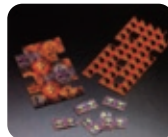
大麻(マリファナ)



コカイン



MDMA



LSD



危険ドラッグ



# 第72回「社会を明るくする運動」

## 作文コンテスト

犯罪予防活動部長 高田 芳彦

昨年10月24日に、福岡県での作文コンテスト最終審査会が開催されました。厳正なる審査の結果、福岡市立東箱崎小学校6年小林アムリヤ理加さんの作品が、最優秀賞である福岡県推進委員会委員長賞に選ばれました。まずは皆様にお知らせします。

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。昭和26年に始まり、本年度72回目を迎えました。

東保護区保護司会でも、過ちを犯した青少年や成人の立ち直り支援や犯罪、非行のない安心で安全な地域社会を築く為の運動を展開しています。

この「社会を明るくする運動」の環境として、平成5年から始まった作文コンテストにおいても、東区小・中学校へ依頼し、本運動に対する理解を深めてもらうことにしています。

コロナ禍も新たにオミクロンへと変化して第7波・8波として終息することなく生き続けていますが、依頼するにあたり学校側の協力が大いに助けられました。ある小学校では、教育の環境として題材、テーマを細かく分類して期間を設け意味を理解させる教育をしてくださったそうです。教育者の指導協力には頭の下がる思いです。一方、小学生の保護者からは、題材が大きすぎるとの声が上がっている事も否定できません。

そんな中ですが、作文コンテストに関する理念と指針に基づき相互理解のもとに、東区小学校29校2290作品、中学校14校2530作品という多くの作品を応募していただくことができました。これも一重に社会を明るくする運動に対する皆様の熱意だと感じております。本当にありがとうございました。



### 【東保護区保護司会 推薦作品】

#### 小学生の部

学校名・学年	氏名	題名
勝馬小学校6年	石原 爽 会	人と人との支え合い
馬出小学校6年	藤森 唯	未成年の未来
東箱崎小学校6年	小林アムリヤ理加	一緒に

#### 中学生の部

学校名・学年	氏名	題名
和臼中学校3年	石橋 美歩	「幸せ」を実感できる社会へ
福岡中学校2年	吉村 香恋	言葉の形
箱崎中学校3年	江平 千優	私たちにできる一歩

### 福岡県推進委員会委員長賞

#### 一緒に

東箱崎小学校6年

小林アムリヤ理加

私は、今家族の父、母と一緒に平和に仲良く毎日を過ごしている。面白い事を言い合ったりして幸せな日々をおくっている。前まで家族と一緒に、ニュースを見ていたりして、よく犯罪のニュースを見たりしていると「なんで、こんなことするんやろ。」「もつと考えて行動できひんかったん。」などと家族で言い合いながらニュースを見ていた。でも、ある時、昔住んでいた海外の家の近所に犯罪加害者家族の方たちが引っこしてきた。当時、ニュースや新聞でたくさん取り上げられた有名な話だった。私達が住んでいた所は田舎だったため、大都会からにげて来たのだらう。その家族が引っこしてきた、近所がざわついた。誰も温かくその家族を迎え入れようとしなかった。助けようとした人もいたが、勇気が足りず、周りの話に流されたのだらう。私はその現状をみて、これはおかしいと思った。「たしかに加害者は刑務所に入って罪を償っている。加害者が犯罪を犯したのは家族のせいでもない。なのになぜ差別するんだらう。」そう思った。この時私は何もしてあげられなくて、なんて無力なんだらうと思ひ、悔しかった。その後、私達家族三人と一緒に住んでいた親せきと一緒にどうやって、その家族の助けになれるか話し合った。まず、最初に出た案は、私達が住んでいた場所から市場などはとても遠い所にあるため、その家族は今

どうやって食べたり、生活しているのか心配だった。だから、その家族の人達と「一緒に」市場に行ったり、でかけたしたりしたらどうかと考えたのだ。また、その家族にも3歳ほどの小さい子供がいた。誰も友達ができず家に引きこもり状態。幼稚園にも通えない。私はその子よりもお姉さんだったため、その子と「一緒に」遊んだりすることに。最初会いに行くと、全員怯えた様子でこちらを見ていた。どれだけ、孤独で悲しかったのかがその様子から分かった。私達が助けている様子を見て、気に食わなかった近所の人もいたように、私達家族と親戚に怒りに来たこともあった。私はその様子をみて、時々やめたいと思うようになってしまった。でも、親から励ましを受けて続けようと思うことができた。するにしろ、私達が助ける様子を見て近所の人達も手伝ってくれるようになったのだ。そして、みんなで支え合いながら生活することができた。

私はこの時の経験から次の三つの事が大切だと思った。心から温かく迎えること。私達がそばにいるという安心感をあたえること。勇気をだして行動すること。そうすれば相手は自分が迎え入れられていると感じることができると思うのだ。それが前向きに生きていく事につながるのではないだらうか。これから先の人生このような出来事がまだおきると思う。たしかに勇気はあるが私は行動した事で大切な事に気づくことができた。当時は親に言われて行動した。だからこの経験をふまえて、次は自分で考えて、進んで「一緒に」行動したい。

「幸せ」を実感できる社会へ  
 和白中学校 3 年 石橋 歩実

「犯罪者」—— 皆さんは、この言葉にどのようなイメージをもつだろうか。様々な犯罪で溢れ返る、現代の日本。きっと、負のイメージを抱く人がほとんどだろう。

しかし、罪を犯した人は皆、私たちが想像するような恐ろしい人間であると言えるのだろうか。それを確かめるべく、犯罪に関する記事を探した私は、厳しい現実を目の当たりにした。

そんな中で一番に目についたのは、私が閲覧した記事の一部に綴られた一文だった。

「更生は、一人ではできない。」

この言葉を目にした瞬間、私は疑問に思った。

「二人では更生できないからこそ刑務所や少年院・少女院があるのではないのか。」

ところが、この言葉の本当の意味を、私はまだ理解できていなかった。獄中での受刑者支援も必要だが、出所後の社会復帰に向けた援助のほうが大切だと言う。近年、元受刑者の二人に一人が再度罪を犯しているようだ。出所後に住む場所、職、そして信頼までも失い、社会から取り残されたが故に招いた結果だった。

これをきっかけに、周りの人からの支えが人生の中でもとても重要な役割を担っているということを実感した。刑期を終え、無事に出所していく人々からすれば、自分を支えてくれる存在の影響は、私たちが思っているよりもずっと大きいと言える。実際、自分の周りに頼れる人、支えてくれる人がいない厳しい現状が原因となって、最終的に再犯という形で刑務所や少年院に戻ってしまう案件もあったと言う。こ

のように、出所したからといって、誰もが同じように平穏な生活を送れるとは限らないのだ。

また、罪を犯す以前から、皆充実した生活を送っていた確証もない。幼い頃からの虐待や人間関係における問題など、悩みを誰にも相談できず、「こんな惨めな人生、もうおしまいにしたい。」という抱えきれないほどの苦しみから自暴自棄に陥り、誰かを傷つけてしまう事件も、私たちの知らない場所まで起こっている。人間として生きていく以上、悩みが尽きることはないため、いつ自分が辛く、苦しい状況にまで追い詰められるかは、誰にもわからない。また、そのときに助けを求められる人がいるかどうかはわからない。だからこそ、この問題から目を背けてはならないのだ。誰もが充実した生活を送り、自分に自信をもって生きられる世の中を創っていかけるように努力していくことが、今を生きる私たちに与えられた使命なのではないだろうか。

現在の私たちにできること——それは、自分と価値観の違う人間だからといって相手を自分から遠ざけるのではなく、「確かにそういう考え方もあるよね。」と受け入れることだと思う。

一人一人異なる個性をもっているように、生まれ育った環境や考え方もそれぞれ違う。相手の「当たり前」が自分の「当たり前」と異なることで、お互いの考えを否定し合い、対立が起ることも少なくない。だが、少しだけ相手を認めてみるというアクションが対立を和らげるとともに、固定概念に囚われず、視野を広げて物事を見る力がつくことにつながっていく。異なる意見を尊重し、物事を多面的に捉えて学ぼうとするその姿勢は、きっと自身自身の成長の糧となるだろう。そして、明るい社会を実現するためには、他人を思いやる気持ちをもつこ

とも大切だ。今ここで自分の人生を振り返ってみても、今日まで他人に助けをもらうことなく、一人で生きてきた人はどこにもいないだろう。一人では生きていけないからこそ、困っている人、悩んでいる人に迷わず手を差し伸べられるようになれば、他人を頼れず悩みを自分一人で抱え込む人が減り、罪を重ねる人も次第に減少していくはずだ。

私一人にできることはとても小さく、限られているが、一人が行動することで家族、友人などの身近な人もその影響を受け、自分以外の誰かのために行動する人が少しずつ増えていくかもしれない。

今よりも明るく、誰もが「幸せ」を実感できる社会を築いていくための大切な社会の一員として、今日から新たな一歩を踏み出していきたいと思う。

松尾義隆保護司を偲ぶ

会長 藤野 重久

「松尾義隆」保護司の突然の訃報に、一同驚愕し悲嘆にくれるばかりです。お元気で多々良地区のリーダーとして活躍されており唯々残念です。

古刹 神感山大悲院 顕孝寺の住職であり、平成6年に保護司を兼務されました。同14年に分区長、同22年からは副会長として東保護区保護司会の理事の要職を務め、就労支援事業やサポートセンター設置等に大きく手腕を発揮していただきました。

松尾様、彼岸の先に行かれましたと存じます。後から追いかけます。またジョッキをかたむけましょ。合掌



令和3年10月 九重「夢」大吊橋にて 後列右から5番目 笑顔の松尾保護司

今度は二人できっと!!

第3分区 森 茂人

松尾さんとの出会いは、いつのことか思い出せないのですが、お互いの子どもが同級生ということでのいつの間にか顔見知りの仲に。平成10年、保護司の推薦の話があった時、松尾さんに面接して頂いたと思います。

それからというもの「職業」の垣根なく、お付き合いいただきました。お酒はお互いに好きなのですが、会の席は同じくしても二人ではどうとう飲む機会がなく残念でした。

余りにも突然で、名残はつきません。そのうち、私がそちらに行つた折には今度こそ一緒に飲みましょ。それまでさようなう。そちらで、私たちが見守りください。

永年に亘る功績により 瑞宝双光章を授与されました。







新任紹介

令和4年10月10日付

「保護司として新たに」

第3分区 堀井 智帆



この度、東区保護司会に新たに仲間入りさせて頂きました。

現在は学校で子どもや家庭の相談支援を行っています。...

「人として」

第6分区 有吉 美樹



私は、小学校・中学校のPTAや消防団に所属していた関係で、保護司

先輩よりお話を頂きました。正直、戸惑いと不安で一度は、保留致しました。

どう生きるか、どう社会に順応するかを共に模索したいと思えます。

「社会奉仕の精神」

第6分区 折居 洋之



昨年10月に保護司の委嘱を受け、務めさせて頂くことになりました。

以前保護司をしておりました。保護司の重責は、中途半端な気持ちで担えるものではありません。

東風吹かば。

分区日記

「第5分区紹介」

第5分区 川村千誉志

5分区の紹介を致します。5分区は個性豊かな13名(男性9名、女性4名)の保護司で構成されています。

定例会は月1回、香椎東公民館にて午後7時から行っています。

また、普段から保護観察の活動中に発生した疑問点や、問題点についても、気軽に保護司同士で質問や相談ができる組織であることも良いところです。

最後に一言、コロナ禍で、ここ3年間は歓送迎会等の懇親を深める席が自粛続きなのが残念です。



「社会を明るくする運動」作文選考の様子

保護司としての専門的な知識や実際の活動については何もわかりません。

中谷チサト様

藍綬褒章受章記念祝賀会

協力組織部長 宮崎 雅敏

令和4年春、東区在住の中谷チサト様が褒章の栄誉を受けられました。

2例目。そして福岡市では初受章です。

昨年10月10日に受章記念祝賀会が開かれ、多数の関係者が集い喜びを分かち合いました。



前列右から2番目の中谷様

表紙写真のことば

口国倒 関戦圧 玄ぶに 校並に 高校と世 業ら厳な 工にず 椎一に 武將。されまし。



甲冑制作は、ものづくり精神を継承しようと、電子機械科の3年生に約20年続く伝統行事です。渡部 聡子

編集後記

8月に他界された松尾先生は、私と同じ臨済宗の僧侶ではありません(浄土宗の和尚様です)が、50年程前に久留米市にある梅林寺専門道場で修行されたことがあります。

(馬場)